

座右の銘は「希望をつないで楽しく元気に老いたい」。2016年2月の広報でそう話してくれた、スキーヤー瀬川鉄男さんは今年の3月で91歳を迎えました。

瀬川さんが22歳の時、勤務先のスキー部発足を機に、本格的に競技スキーをスタート。若い頃は大会に出場しても思うような結果を出せませんでした。大好きなスキーをずっと続けてきました。夏場には登山や自転車、ウェイトトレーニングなどで体力づくりに励み、75歳の時には全日本マスターズで銅メダルを獲得するまでになりました。

しかし、順調だった競技人生が一変します。妻の一子さんが2021年に重い病気を患い、自宅

での看護が必要となったため、競技からは退くこととなりました。23年に妻が亡くなるまでの間も、トレーニングは続けており、今シーズンからの競技復帰を決意。

今年の2月28日から3月3日まで長野県の志賀高原で開催された第48回全日本マスターズスキー選手権。今まで積み重ねてきた地道な努力が実を結び、競技人生最後の大会で自身最高の銀メダルを獲得しました。

「今までスキーを続けてこれたのは好きだったから。これからは引退しますが、スキーはこれからも続けます。今の趣味は、週一回のヨガと読書」と話す瀬川さんの人生は、これからも「楽しく元気に」続いています。



瀬川 鉄男 さん(新北町)

Profile

【profile】せがわ・てつお
1933(昭和8)年3月生まれ、磐梯町出身。元県マスターズスキー協会理事長。22歳の時、勤務していた日曹金属化学(磐梯町)のスキー部に入部し、本格的にスキー競技を始める。

新屋内運動場等の落成を祝う

猪苗代中学校新屋内運動場・グラウンド落成式



落成式が行われた新屋内運動場

猪苗代中学校新屋内運動場・グラウンド落成式は3月8日、同校新屋内運動場で行われ、関係者や生徒ら約350人が出席しました。式では、二瓶盛一町長が「屋内運動場は、県産木材をふんだんに使用し、学校らしい温もりのある施設に仕上がりました。より良い教育環境の充実に努めていきます」とあいさつした後、工事関係者に感謝状が贈られました。後藤公男町議会議長が祝辞を述べ、生徒が校歌を斉唱し、落成を祝いました。

西館地区が地区防災計画を策定

地域で助け合い、支え合う「共助」の計画

西館地区防災計画の完成報告会は3月18日、町役場で行われ、鈴木清孝西館区長が渡部昭副町長に完成を報告しました。地区防災計画は、災害時に備え、防災マップや地区で活動する組織体制など、地区の特性に応じた防災計画です。同地区では令和5年度に、町や県、郡山女子大学の協力を得ながら、地区内を歩いて災害時に危険箇所の確認したり、ワークショップなどを開催して、地区防災計画を作成しました。



計画の完成を報告した鈴木西館区長(左)

地域おこし協力隊通信



私たちが地域を元気に！
地域おこし協力隊

あやか
戸泉 綾華さん

主な活動内容：鳥獣被害対策

2021年に猪苗代町へ移住し、3年間で有害鳥獣対策員として活動してきましたが、3月末で任期満了となりました。私が主に担当していた業務は、二ホンザルの巡回調査です。ザルの群れごとの居場所確認と鳥獣の位置情報のメール配信を行っていました。そのほかにもイノシシやツキノワグマなどの出没痕跡調査、捕獲檻の設置、電気柵の設計や設置指導等に携わってきました。

猪苗代町で実際に鳥獣被害の現状を見て、被害を少しでも軽減したいと思い活動してきましたが、効果を十分に実感できたのはごく一部で、任期満了となったのが心残りです。しかし3年間活動する中で、多くの町民の皆様と関わる事ができ、現場で声をかけてくださる人や電気柵の設置を一緒に行なった人たちから、今年は野菜が収穫できたと聞いた時はとてもうれしく思いました。

3年間はあっという間でしたが、猪苗代町の自然や歴史の魅力を深く知る事ができました。今まで私の活動を見守り支えてくださった皆さん、ありがとうございました。

ホットニュース



Profile 阿部 麗也 Reiya Abe

1993年3月25日生まれ、31歳。神奈川県在住、町内旭町出身。KG大和ボクシングジム所属。左利きのアウトボクサー。2013年6月にプロデビュー。第61回全日本フェザー級新人王。2022年5月に日本フェザー級王座、WBOアジア・パシフィック同級王座を獲得。2023年4月にIBFフェザー級挑戦者決定戦で12回判定勝ちし挑戦権を獲得。プロ通算30戦25勝(10KO)4敗1分。

国際ボクシング連盟(IBF)フェザー級タイトルマッチは3月2日、米ニューヨーク州ベローナで行われました。同級1位で本町出身の阿部麗也選手は、王者のルイス・アルベルト・ロペス選手に挑み、8回39秒でレフェリーストップによるTKOで敗れ、王座奪取はなりませんでした。

序盤に王者の左フックを受けて、右目付近は大きく腫れ上がりました。視界はふさがれ3回以降、頻りにドクターチェックが入り、8回には反撃できないまま、相手の連打にさらされ、レフェリーがたまたま試合を止めました。

阿部選手は「負けて悔しいですが、今回はチャンピオンが強かったです。チャンピオンの自信とパワフルさに飲まれたような気がし

ます。ただ、アメリカで世界戦ができたという経験は今後につながると思っています。今回の試合で目の負傷もあり、怪我が長引くようであれば進退を考えましたが、幸い大きい怪我ではなかったため、また世界を目指して再起します。猪苗代町出身のプロボクサーとして、世界チャンピオンを目指して頑張ります。今後も応援よろしくお願います！猪苗代町出身でこんなボクサーがいるんだという事を知ってもらえたら嬉しいです！」と話しました。

初めての世界戦。働きながら頂点を目指した阿部選手。世界一のタイトルには届きませんでしたが、次戦を見据え、新たなスタートを切りました。